平成29年度
事業報告書

社会福祉法人楽友会

《評価》について

事業計画で設定した目標（取り組み）の達成状況を次の5ランクで評価した。

- A 目標どおり実施できた（達成度 10割）
- B ほぼ実施できた（達成度 7割以上）
- C 半分ぐらい実施できた（達成度 5割前後）
- D あまり実施できなかった（達成度 3割前後）
- E 全く実施できなかった・実施しなかった

目 次

全体の総括	3
I. 法人及び法人本部事業報告	3
II. 特別養護老人ホーム白楽荘事業報告書 （特別養護老人ホーム・短期入所生活介護）	9
III. 多摩市白楽荘在宅サービスセンター通所介護事業所事業報告書 ...	13
IV. 多摩市白楽荘在宅サービスセンター 認知症対応型通所介護事業所事業報告書	16
V. 多摩市白楽荘在宅サービスセンター訪問介護事業所事業報告書 ...	19
VI. 白楽荘居宅介護支援事業所事業報告書 （指定居宅介護支援事業・介護予防支援事業）	22
VII. 認知症対応型通所介護ほのぼの堀之内事業報告書	25
VIII. 多摩市多摩センター地域包括支援センター事業報告書	26
IX. 軽費老人ホームA型偕楽荘事業報告書	28

社会福祉法人 楽友会

平成29年度 事業報告書

全体の総括

平成29年度は楽友会にとって新たな一歩を踏み出した年度となった。社会福祉法の改正に伴い、従来の理事会、評議員会から新たな執行体制へ円滑に遅滞することなく移行し、また、長期ビジョン2015、第1期経営計画に位置付けられた新規事業、八王子市地域密着型認知症通所介護事業所である「ほのぼの堀之内」を開設。これらは平成29年度事業計画でも冒頭に掲げた「これからの社会福祉法人」をめざした取り組みの一環である。

既存の各施設事業所においても、そうした新たな動きに呼応して、「これから」を具体的な「形」にしていくために様々な取り組みがなされている。

以下に法人、各施設事業所の平成29年度事業報告を行う。

I 法人及び法人本部事業報告

平成29年度の主な取り組み結果として、広報については広報誌のリニューアルや社内報の発行などを行い、内外への情報提供に取り組み、現在も着実に実施することができた。

また、キャリアパス体系や新たな人事考課制度の整備のため原案作りに取り組み、平成30年度は引き続き導入に向けた準備を進行していく。

施設建物の維持管理においては、東京ガスエネルギーマネジメントシステムの導入により、照明器具のLED化、コージェネレーションシステムによる非常時の電源確保、給湯器の更新などを図ることができた。

1. 事業の期間及び種別について

(1) 事業の期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

(2) 事業の種別

○ 主たる事務所の所在地

〒206-0042 東京都多摩市山王下1-18-2

○ 事業の種別

第1種社会福祉事業

- ① 軽費老人ホームの経営（偕楽荘 入居定員 50 名）
- ② 特別養護老人ホームの経営（白楽荘 入居定員 150 名）

第2種社会福祉事業

- ① 老人デイサービスセンターの経営（多摩市白楽荘在宅サービスセンター 通所介護 1 日利用定員 35 名 認知症対応型通所介護 1 日利用定員 12 名。ほのぼの堀之内 認知症対応型通所介護 1 日利用定員 12 名）
- ② 老人短期入所事業の経営（白楽荘 定員 10 名及び特養空床利用分）
- ③ 老人居宅介護等事業の経営（多摩市白楽荘サービスセンター）

公益を目的とする事業

- ① 居宅介護支援事業（白楽荘居宅介護支援事業所）
- ② 地域包括支援センターの経営（多摩センター地域包括支援センター）

多摩市からの受託事業

- ① 多摩センター地域包括支援センター
- ② 高齢者住宅「シルバーピアあたご第3」における生活協力員（LSA）業務 42 戸、住込みタイプ 1 名、通勤タイプ 1 名
- ③ 家族介護者教室
- ④ 在宅支援事業（市が認定した者への短期宿泊生活管理事業）

2. 平成29年度法人及び法人本部の重点項目への取り組み状況について

(1) 法人新執行体制確立に向けて 【評価A】

〈取り組みの目標〉

- ① 社会福祉法の改正に伴う、新たな評議員会及び理事会の運営体制の確立に取り組み、内部管理体制の整備を図る。
- ② 既存規程の見直しや規程の新設を行い、適宜ガバナンスの強化を図る。

〈取り組みの結果〉

社会福祉法改正への対応については計画通り実施することができた。理事、監事の役員体制、新たな評議員や評議員選任解任委員の体制も整えることができた。新執行体制にあわせ、定款や定款細則をはじめとした各種の規程なども適宜整理し、所轄庁への手続き等を含め、混乱なく新体制のスタートを切ることができた。

今後も新執行体制がきちんと機能し、法人の健全運営が維持できるよう、内部管理体制の向上に努めていく。

(2) 新たな人事制度確立に向けて 【評価：C】

〈取り組みの目標〉

- ① キャリアパス体系を整理し誰もが自身のキャリア構築を描けるようにする。
- ② 人事考課制度のリニューアルに取り組み、平成30年度導入を目指す。
- ③ 職位、役職、等級の整理を進め、キャリアパス体系や人事考課制度と連動した新たな給与体系の構築に取り組む。

〈取り組みの結果〉

キャリアパス体系の原案については法人の運営会議において検討した。また、人事考課制度や新給与制度の骨子については検討を進めることができた。

平成29年度中間評価までは制度設計など着実に進行できたが、中間評価以降、それぞれの制度原案において、専門職の等級と保有資格の関係、昇格制度の仕組み、汎用性の高い人事考課制度、世代に応じた手当制度の在り方などの検討がまだまだ必要であるとして、新制度の導入予定を平成31年度以降とし、引き続き取り組みを続けていくこととなった。

(3) 新規事業の実施に向けて 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 八王子市への地域密着型認知症通所介護事業所開設に向けて引き続き取り組む。
- ② 介護初任者研修事業を実施し、介護・福祉人材の新たな育成に取り組む。

《取組みの結果》

開設準備室を設置し、開設場所の選定や八王子市との事前調整などに取り組んだ。結果、八王子市松木に認知症対応型通所介護事業所「ほのぼの堀之内」を平成30年3月1日付で開設することができた。3月の開設以来、徐々に利用者数も増加してきている。引き続き、認知症ケアの充実と地域への情報発信に力を入れて取り組む。

介護職員初任者研修事業は、平成29年度第1回は受講応募が0件のため休講したが、第2回は2名の参加者があり、無事に研修を修了することができた。

(4) 法人50周年に向けて 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① 平成30年度に実施予定の法人設立50周年記念行事の検討と準備に取り組む。
- ② 法人設立50周年記念誌の発行に向けて編纂作業に取り組む。

《取組みの結果》

平成29年度は、記念式典の日程と会場を決定した。記念行事については大まかな計画にとどまったが、平成30年度になり、実行委員会を設立し、法人50周年記念行事の本格的な準備を開始する。

(5) 法人広報の充実に向けて 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① より幅広い対象者に向けて福祉や介護、法人、地域等について情報発信を行う媒体となるよう法人広報誌の紙面構成の見直しに取り組む。
- ② 法人経営を全職員が知ることができ、法人をより意識できるよう社内報を発行し、理事会の動きや法人のトピックス等を職員向けに発信する。

《取組みの結果》

法人広報誌の刷新をはかり、刊行毎にテーマをしぼり、手に取る人に読んでいただけるような紙面作りに取り組んだ。

社内報は理事会の動きや法人のトピックスを中心に適宜発行し、平成29年度は初号から25号まで刊行した。

平成30年度は、法人ホームページの情報発信力を最大限に活用することを目的に、リニューアルを予定している。法人、各事業所の紹介とともに、人材採用の重要な広告媒体として利用する。合わせて、Facebook や Instagram などのSNSによる情報発信を行う。

(6) 施設設備の改修及び機器の更新に向けて 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① 第1期経営計画における設備の改修計画、機器の更新計画について適宜の見直しを実施する。
- ② 東京ガスエネルギーマネジメントシステム導入、白楽荘食堂等改修、偕楽荘浴室改修等の実施について円滑に行えるよう、マネジメントに取り組む。
- ③ 法人施設外周部分の植栽や老朽化している案内板等設備の改善策を検討し、環境整備を実施する。

《取組みの結果》

東京ガスエネルギーマネジメントシステムを導入し、館内のLED化、高ジェネレーションシステムの設置などにより、節電と停電時の非常電力量の増加が図れた。また、白楽荘の食堂等内装の改修及び偕楽荘の男女浴室の改修は計画通り実施した。施設外周部の植栽の伐採など環境整備にも取り組んだ。

施設設備の改修や機器の更新について、第1期計画から第2期計画を作成中である。施設設備等の大規模改修工事に向けてコンサルタントを交え、ご利用者が住みやすく利用しやすい環境、また、職員が働きやすい環境となるように引き続き検討していく。

(7) 地域住民、地域関係者等との交流充実に向けて 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 地域住民が法人施設を身近に感じてもらえるよう引き続き法人行事と

して納涼祭、楽友祭を実施する。

- ② 施設機能や設備の開放について検討し、多摩市社会福祉協議会多摩市内社会福祉法人ネットワーク協議会での取り組みと連携を図る。
- ③ 地域関係者との交流を図るため、地域行事へ法人として積極的に参加する。

《取り組みの結果》

7月の納涼祭、11月の楽友祭に法人施設近隣地域の方が多数来場され、イベントを通じて法人の存在や取り組み等を地域に発信することができた。10月には総合福祉センターで行われた福祉フェスタ（多摩市社会福祉協議会主催）に出展し、多くの来場者に法人の各サービスや取り組みなどを紹介することができた。

平成30年度も引き続き地域住民や地域関係者との交流機会を設けて、積極的に法人の取り組みなどを紹介していく。

Ⅱ 特別養護老人ホーム白楽荘事業報告書 (特別養護老人ホーム・短期入所生活介護)

入所ご利用者個々の個別ケアの実践が年々増加していることから、担当ケアワーカーの役割も変化してきている。その中で、担当ケアワーカーが実践する個別ケアのマニュアルを大幅に見直す必要がある。

平成29年度より取り組んでいる音楽療法は、ボランティアやご家族が参加する方法も定着し、充実した認知症支援の一つになった。

平成29年度に力を入れた協力病院や近隣病院との関係も、連携を強めることで、必要な医療機関の受診や入院対応もスムーズに行えた。

また、生活環境の整備については、ご利用者の介護の重度化を考えると、現状の施設の設備(生活機器や建具等)の構造では不便な面もあり、その改善が当面の課題となっている。

平成29年度重点項目への取り組み状況について

(1) ご利用者の生活環境の改善 【評価：B】

〈取組みの目標〉

- ① ご利用者の生活環境、特に食堂と機能訓練、余暇活動等、多岐にわたる利用目的がある食堂の生活環境を改善する。
- ② 一般浴室の入浴方法を見直し、プライバシーに配慮した形態に見直していく。

〈取組みの結果〉

平成29年度は生活環境の改善を目標に掲げ、食事検討委員会や入浴検討委員会を中心に検討し、ご利用者の使用しやすいテーブルの購入等、食事環境の改善を行った。重度要介護のご利用者が年々増加している。常時車椅子を利用する方の割合も全体の90%を超え、現在使用している食堂も手狭となっている。入浴形態も機械浴の利用率が増えており、機器の更新や見直しが必要となっている。

(2) 個別ケアの実践 【評価：B】

〈取組みの目標〉

- ① 担当ケアワーカーを中心とした施設サービス計画書を作成する。
- ② P D C Aサイクルを基本とした介護支援を実践する。
- ③ 生活スタイルに焦点を当てた担当者会議を実施する。

《取組みの結果》

ご利用者の状態が年々重度化している状況で、個別ケアを実践していくためには、アセスメントやサービス担当者会議の充実が不可欠である。

平成29年度は、ご利用者個々の生活スタイルや意向等を重視した施設サービス計画書の作成や個別ケアの実践に力を注いできた。しかし、個々の職員の資質によって個別ケアの内容に若干の差が生じた為、平成30年度はフロアケアマネージャーを3人増員し、個別ケアが充実するような体制を整備していく。

(3) 認知症ケアへの取り組み 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 音楽療法の充実を図り、認知症療法としてのケアを実践する。
- ② 特養職員を対象にした認知症支援の為の研修を行う。

《取組みの結果》

認知症と診断されているご利用者は、全体の95%を占めている。認知症ケアを実践していく中で、日々診察をしている専門医による研修は、具体的な支援方法の実践に大きく役立っている。また、認知症ケアを目的とした音楽療法は、回数と内容共に充実し、ご家族やボランティアも参加した充実したケアが出来ている。平成30年度も更に充実した認知症療法の充実を図っていく。

(4) 基本的な介護の見直し 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① **多**職種が関わる介護委員会を設置し、基本となる入浴支援・排泄支援を見直していく。
- ② 副主任を中心にご利用者に合わせた排泄、入浴方法、入浴時間等、システムを見直す。

《取組みの結果》

入浴介助、排泄介助等の介護方法について、施設介護職員で構成する介護委員会を中心に日々見直しをしている。

入浴介助では、「快適に入浴するには」という課題を掲げ、イベント入浴や乾皮症の方への対応、マッサージによる血行促進等の支援を行った。

排泄介助については、「下剤を使用しない排泄支援」をテーマに、水分を多く取れるよう、飲み物の種類を増やしたり、便秘解消の体操を毎日実施する等の支援を行った。

(5) ご利用者の急変対応 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 急変時、病院の受入れが可能となるよう、病院と連携する。
- ② 新たに追加した協力病院との受入体制を確立していく。
- ③ 入退院のムンテラ（病状説明）には必ず参加し、病院との連携を強化していく。

《取組みの結果》

ご利用者の急変時にスムーズな対応が可能となるよう、協力病院や近隣病院との連携を強化した。病院との連携は、病棟や地域連携室だけでなく、主治医とも積極的に情報交換等を行った。また、入院に限らず、病院からの要請に応えスムーズな退院を実現することで、結果として病院との連携が強化され、ご利用者の急変時対応を滞りなく進める事が可能となった。

(6) 入居支援サービスの充実 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 365日の相談体制を確保する。
- ② 困難事例ケースに対応可能な体制を確保する。
- ③ 地域の福祉相談を休日も含め積極的に受ける。

《取組みの結果》

入居のご利用者、ご家族、地域相談も含め、相談員の365日体制が確立しており、地域の拠点施設としての役割を果たした。休日夜間の緊急受け入れについても、行政関係者や各事業所にも周知できており、入居支援サービスは幅広く対応が可能である。

(7) 地域との連携 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 地域住民を対象にした介護者教室を開催する。
- ② サービス事業所との連携を図り、福祉ニーズの把握と具体的なサービスに繋げていく。
- ③ 地域の集まりに積極的に参加し、地域の拠点としての存在を確立する。

《取組みの結果》

地域住民への介護者教室の開催、サービス事業者との連携、学校や他施設への講師派遣を実施した。

短期入所サービスを利用されているご利用者の担当者会議には可能な限り参加し（平成29年度合計125回）、当施設に求めるサービスや期待することなどを直接伺い、具体的なサービスを提供することができた。

(8) 目標年間稼働率の達成 【評価：B】

《取り組みの目標》

- ① 特養目標年間稼働率 97%
短期入所目標年間稼働率 95%
特養及び短期入所合計目標年間稼働率 96.8%
- ② 通常の入居申し込み以外に、病院や他施設との連携を図り、早期の入居対応を目指す。
- ③ 他の施設が受けていない日祝夜間の短期入所のご利用者を受け入れる。
- ④ 居宅介護支援事業所との連携を図り、地域のニーズに応える施設サービスを展開する。

《取り組みの結果》

- 特養稼働率：94.1%
- 短期入所稼働率：118.2%
- 全体稼働率：95.6%

目標に掲げた稼働率には全体として1.4%下回った。主な要因として、入居1年未満で退居した方が13名と過去最多であったこと、また、入院者数も昨年度より10名増えて39名となったことなどがあげられる。

Ⅲ 多摩市白楽荘在宅サービスセンター 通所介護事業所事業報告書

白楽荘デイサービス（一般型、愛称：えがお）の対象者は、総合事業対象者（要支援認定者）から重介護の介護度（要介護5）の方まで幅広い層である。全てのご利用者に対応するためには活動メニューの幅を広げていく必要があるが、幅広い活動には支援いただくボランティアの受け入れを増やすことが重要である。

平成29年度は、ボランティアの増加を念頭に置いて、講演会の開催等地域活動に取り組み、成果を上げることができた。

また、ご利用者自身のいきがいに繋がる活動として、「人のためにできること」活動を行い、ご利用者自身がボランティアになって活動したり、ご自身の創作作品を寄附したりするなど取り組んだ。

平成29年度重点項目への取り組み状況について

（1）ご利用者の自立支援や個別ニーズに目を向けた介護の実践【評価：A】

《取り組みの目標》

- ① アセスメント及び通所介護計画書作成に際し、個々のご利用者の希望等をご利用者・ご家族から聴取し、担当する職員に周知して、全職員が適切に対応する。
- ② 個々のご利用者の生活状況を意識し、活動内容が画一的でなく、ご利用者の能力を活かした生活行為力向上の訓練に繋がるよう、多様なプログラムを提供する。
- ③ 積極的に研修に参加し、幅広い知識・技能を取り入れ、サービスの見直しや充実を図りながら、利用者サービスの向上に努める。

《取り組みの結果》

個々のアセスメントやケアプラン、ご利用者自身の声から聴きとった情報をもとに職員間で情報共有に努め、プログラムの充実を図った。ご利用者が他利用者に編み物を教えたり、人との交流がスムーズにできにくい男性利用者間で、制作活動を通して交流を図れる関係づくりができたりと、人との交流やいきがいに繋げる支援が行えた。平成30年度は個々のご利用者の情報を職員間でより共有しやすいツールの見直しも行いながら、継続して実践し

ていく。

(2) 地域との連携 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① ご利用者の居住地周辺及び白楽荘近隣の関連団体についての情報収集に取り組み、ご利用者が自立した生活を送れるように社会資源の適宜紹介や提案を行っていく。
- ② 地域住民に白楽荘通所介護を知ってもらうとともに、高齢者への理解が深まる機会となるよう、ボランティアの受け入れ及び関係機関や地域で行われている会合への参加や講演会の開催等を実施する。また法人行事を活用して活動のPRを行う。

《取組みの結果》

唐木田駅前での認知症カフェ（匠カフェ）の企画開催、多摩市委託の介護者教室の開催、ボランティア・市民活動センターと共催で回想法講座入門編を開催した際などに通所介護の紹介やパンフレット・広報誌の配布を行い、PRに努めた。その結果、新たなボランティア活動に繋がった。平成30年度も地域での活動に積極的に参加していく。

また、夏のボランティアの受け入れの他、既存のボランティアの紹介で新規のボランティアの受け入れを行っている。

ご利用者に向けた地域情報の案内も、平成29年度はご利用者の活動グループ毎に各テーブルへの配布をし、ご利用者同士での情報共有にもなった。

(3) 目標年間稼働率の達成 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① 目標年間稼働率 85%
- ② 関係機関との交流の場に積極的に参加すると共に、活動を知ってもらう機会となるよう見学会の開催やパンフレットの定期的な見直しを行い、ケアマネジャーや地域に対してインパクトのあるPR活動ができるよう工夫する。
- ③ 新規ご利用者に向けて、パンフレットの提供や見学、一日体験（食事・送迎付き）を行い、デイサービスの雰囲気を感じていただくことで、長期利用に繋げていく。

- ④ 暫定利用の受入れやケアマネジャーからの相談にも迅速に対応し、ケアマネジャーとの信頼関係を深めるよう取り組む。

《取組みの結果》

週に3回以上ご利用されていた方が複数名利用終了となり、新たに利用される方が週1～2回程度の希望が多かったこと、1月中旬にインフルエンザ罹患者が多く出たこと、また大雪の影響も重なり、平成29年度は大きく稼働率が低下した。(年間稼働率75.1%)

平成30年度は、地域で感染症が流行する時期には、マスク着用や体調不良時のお休みをご家族に依頼するなど早めの対策をとっていく。また、事業所のPRのために近隣地域の居宅介護支援事業所ケアマネジャーを対象に、ご利用者の紹介に繋がられるよう、食事会を兼ねた見学会の開催なども企画していく。

IV 多摩市白楽荘在宅サービスセンター 認知症対応型通所介護事業所事業報告書

認知症になっても住みよい街であるために、地域の方により認知症への理解を持っていただくための働きかけを行った。具体的な取組みとして、地域に向けて発信する場への参加や、運営推進会議でご家族や地域関係者と意見交換する機会を作り、活動に反映させた。

日々の活動の中では、ご利用者のできることを活かし、それをご家族とも共有できるように情報共有に努めた。

平成29年度重点項目への取り組み状況について

(1) ご利用者の自立支援や個別ニーズに目を向けた介護の実施 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 「できること」をご自分で取り組んでいただき、「できないこと」「わからないこと」に対して適切に支援する。
- ② ご利用者の通所介護での様子やご家庭での様子等をご家族と情報共有し、活動の工夫や振り返りを行う等、活動後の評価に向けても取り組み、ご利用者の状況に即した専門性の高い支援を行う。
- ③ ご家庭の状況も個々に違うことを意識しながら、ご利用者が地域での生活を長く継続できるようご家族への支援にも取り組む。

《取組みの結果》

個々のご利用者の能力を意識した支援をするように努め、情報収集ツールの活用の検討と一部実施を行いながら、新たなプログラムの提供や活動方法の見直しなどを行った。また、ご利用者の在宅生活を支えているご家族支援にも力を入れ、ご家族との日々の情報交換から察知できたことをケアマネジャーにも報告・提案を行い、臨時利用などにも積極的に対応した。

(2) ご利用者の個々の特性に配慮した活動の提供 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域住民が認知症への理解を深める機会となるよう取り組むとともに、ご利用者の社会交流の拡がりに繋げていく。
- ② 地域の社会資源との連携を築くためにも、関係会議及び地域での催し等への参加や開催を積極的に行い、地域住民が認知症の理解を深め、認知症の方が住みよい街になるための働きかけをする。また、ご利用者及びご家族の在宅生活を支えるために社会資源の紹介や提案を行う。

《取組みの結果》

認知症による周辺症状が顕著なご利用者への対応なども他のサービス提供事業所と密に連絡をとり、支援方法を共有することで、ご利用者の精神安定を図るなど、新たな取り組みも行った。また、ご利用者の希望に即したボランティアの受け入れなども行ない、個々に合わせながら活動の幅を広げることができた。

(3) 地域との連携 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域住民が認知症への理解を深める機会となるよう取り組むとともに、ご利用者の社会交流の拡がりに繋げていく。
- ② 地域の社会資源との連携を築くためにも、関係会議及び地域での催し等への参加や開催を積極的に行い、地域住民が認知症の理解を深め、認知症の方が住みよい街になるための働きかけをする。また、ご利用者及びご家族の在宅生活を支えるために社会資源の紹介や提案を行う。
- ③ 運営推進会議を開催し、ご利用者及びご家族、地域関係者との交流の機会を作る。
- ④ 地域住民の認知症高齢者に対する理解を深めてもらえるよう関係機関と連携し、各種講座を開催するとともに活動のPRにも取り組む。

《取組みの結果》

大妻女子大学やあい介護老人保健施設等と連携して認知症カフェ「匠カフェ」を月1回開催したことや、年2回の運営推進会議で地域住民に向けた認

知症の理解を深めるための講座や意見交換を行い、認知症の方が暮らしやすい街について考える場を設けた。また、「RUN とも」（認知症の方と一緒にタスキを繋ぐランニングイベント）の応援用品を作成し、当日は応援団として参加をしたり、唐木田児童館出張ひろば事業「プチフェアリー」と合同のクリスマス会開催など、ご利用者が地域と関りがもてる機会を作り参加した。平成30年度も地域との繋がりをもてる機会を作っていく。

（4）目標年間稼働率の達成 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① 目標年間稼働率 75%以上
- ② 見学や1日体験等にも迅速に対応し、個々の希望に即した送迎の対応も行う。
- ③ ケアマネジャーに認知症通所介護を知ってもらう機会として、各活動の紹介や見学会の開催、広報誌等で活動を紹介していく。

《取組みの結果》

新規のご利用者は12名でほぼ例年と変わらない人数だったが、ここ数年の平均利用終了者数が11名程度であるのに比べ、平成29年度は入院・入所、死亡の方が多く、合計17名の方が利用終了となった。

パンフレットの見直しや広報誌の配布などを行いながら、ケアマネジャーへのPRに努めたり、見学や体験利用も迅速に対応したが、下半期にはインフルエンザや大雪による利用減などの影響が大きく、目標稼働率を達成することができなかった。（年間稼働率69.6%）

平成30年度は、感染症の予防対策の強化に加え、臨時利用への働きかけも積極的に行いながら、目標稼働率を超えるように取り組んでいく。

V 多摩市白楽荘在宅サービスセンター 訪問介護事業所事業報告書

ご利用者、ご家族へのモニタリングを毎月定期的に行い、ご意向を把握しながら、関係機関との連携を図り、「自立支援」を目的としたサービス提供に努めた。

また、登録ヘルパーがサービスの目的を理解した支援ができるように、職員研修も継続して行うなど、サービスの質の向上にも努めた。

平成29年度重点項目への取り組み状況について

(1) 専門性をより高めた多様なサービス提供 【評価：B】

〈取り組みの目標〉

- ① ご利用者の「自立」を支援することを目的とした「訪問介護計画書」「第1号訪問事業（現行相当訪問介護）サービス計画書」をサービス提供責任者が作成し、訪問介護員と連携しながら、専門性をもったサービス提供に努める。
- ② 年に1回ご利用者やご家族にアンケートを行い、ご要望・ご意見を認識し、サービスの向上につなげていけるように努める。

〈取り組みの結果〉

ケアマネジャーの作成するケアプランに基づいて自立支援を目指し、専門性を持ったサービスを提供できるという視点のもとで計画書の作成を行った。

利用者アンケートについては、毎月モニタリング訪問時にサービス内容に関すること、事業所に関する事などの聞き取りを行うことができたため、アンケート形式では実施しなかった。

平成30年度も引き続き自立支援を目指した計画書を作成し、サービスの向上に努める。

(2) サービスを支える職員の専門性を高める取り組み 【評価：A】

〈取り組みの目標〉

- ① 訪問介護員のスキルアップのために、研修・会議を継続し、質の高いサービス提供に努める。

- ② サービス提供責任者のマネジメント能力向上のため、外部研修等に参加する。

《取組みの結果》

年11回の会議や研修を行うことができた。なお、12月は感染症の関係で未開催となった。

研修では、直接ケアにかかわる技術的な内容だけではなく、倫理や制度などの研修を行うこともできた。今後もサービス提供責任者を中心に専門性やスキルアップにつながるような外部研修に参加したり、訪問介護員向けの事業所内研修を継続する。

(3) リスクマネジメントへの取り組み 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① 事故や苦情発生時には訪問介護員とともに速やかに検証し、再発防止に努める。
- ② 訪問介護員へ「ヒヤリハット」への意識付けを行い、事故の予防に努める。

《取り組みの結果》

事故報告：3件・・・訪問忘れ1件、物損2件

平成29年度は昨年度より事故の発生が少なかった。(参考：平成28年度事故報告9件)

ヒヤリハットの段階での対応が事故防止に結びついていることなどを研修で行っており、取り組みを続けていることが事故件数の減少につながっていると考えられる。しかし、ヒヤリハットは事故になる前の気づきでもあり、報告数が少ないと感じている。

平成30年度も引き続き取り組んでいき、事故や苦情の防止に努める。

(4) 地域との交流の充実に向けた取り組み 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① 関係機関や地域住民に法人行事等を通してPR活動を行い、事業所の周知に努める。

《取組みの結果》

法人行事の際にチラシを配布して事業所のPRを行ったり、法人で開催した初任者研修に協力し、訪問介護事業所の紹介を行っただが、広く地域と繋がるまでの取り組みはできなかった。

平成30年度も引き続き法人と共にどのような形で地域交流や事業所のPRをしていったら良いかを検討していく。

(5) 関係機関との連携や新規ご利用者獲得に向けた取り組み 【評価：A】

《取り組みの目標》

- ① ケアマネジャーと信頼関係を築けるよう、ご利用者の状況報告等を密に行い、連携を図るよう努める。また、急な依頼等にも迅速な対応に努める。
- ② 関係機関連携会議等に積極的に参加し、顔が見える関係作りに努める。
- ③ 自費サービス事業を行い、多様な依頼にも応じることができるよう努める。

《取り組みの結果》

毎月のモニタリング報告はもちろん、ご利用者の状態をメールや電話でリアルタイムに報告してもらい、関係機関と迅速な情報共有を行うことができた。さらに、急な依頼時にも対応するよう努めた。

各種会議などにも積極的に参加し、関係づくりにも努めた。

自費サービスについては、依頼に対して迅速に対応することが出来た。

登録ヘルパー数を増やせないでいる問題と合わせ、今後も関係づくりや新規利用者の獲得に向けて取り組んでいく。

新規ご利用者数・・・要介護：6名 要支援・総合事業：4名 自費2名

VI 白楽荘居宅介護支援事業所事業報告書 (指定居宅介護支援事業・介護予防支援事業)

平成28年度末に職員の入退職があったこともあり、ケアマネジメントの基礎部分を再確認することを重視し、会議の開催や内部点検を行った。

介護支援専門員一人当たりの担当件数35名の維持を意識して、積極的に新規利用者の受入れを行ったが、入院や入所等で在宅サービスを終了するケースも多く、利用者数維持は難しかった。

平成29年度重点事項への取り組み状況について

(1) ケアマネジメントの充実【評価：B】

《取り組みの目標》

- ① 「アセスメントに基づくニーズを踏まえた適切な課題抽出」のプロセスを意識し、継続的に見直しを行っているアセスメント様式を評価しながら、根拠に基づいたケアマネジメントの実践に取り組む。

《取り組みの結果》

継続的に評価及び見直しを行っているアセスメント様式だが、平成29年度は東京都推奨の「リ・アセスメントシート」と連動した書式を作成するところまで至らなかった。多摩市ケアプラン点検の事例提出時も「リ・アセスメントシート」を作成する必要があるため、業務効率化のためにも平成30年度は連動書式作成を目標にしていきたい。

(2) 職員研修の充実【評価：A】

《取り組みの目標》

- ① 介護支援専門員が個々に抱える課題や弱点の解消を目的に、居宅介護支援事業所としての研修体系を明確にするとともに、計画的に研修等に参加していく。
- ② 研修や講習、学習会に参加し、介護支援専門員としての資質の向上、専門知識・技術の向上に努め、研修参加後は事業所内で情報や知識の伝達を行う。

《取組みの結果》

1年を通じて個人差はあるが、計画に沿った内容の研修に各自参加することができた。平成30年度も立案した研修計画に基づき、資質向上のために研修に参加できるように体制を継続していく。

(3) リスクマネジメントへの取り組み 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① チームケア会議や居宅会議等で利用者の情報を共有し、全員で対応できる体制を作る。
- ② 災害時等にも利用者・家族が必要かつ適切な支援を滞りなく受けられるよう、平素から緊急連絡先や緊急時対応について確認を行い、独居世帯・高齢者世帯を中心とした「非常災害時要援護者リスト」を定期的に更新していく。
- ③ 災害時の対応マニュアルの整備を継続していく。

《取組みの結果》

定期的に各種会議を開催し、利用者の支援状況等を全職員が大まかに把握できるよう情報共有に努めた。平成30年度も継続していく。

担当利用者の緊急時連絡先や対応についても、モニタリング等で必要時に確認した。

災害時対応マニュアルについては、夜間及び休日版が書式として完成できていない。平成30年度で取り組んでいきたい。

(4) 会議等への参加・関係機関との連携 【評価：A】

《取組みの目標》

- ① サービス提供地域（多摩市、八王子市）の行政担当部・課、地域包括支援センター主催の会議等に積極的に関わっていくことで、情報収集に努めるとともに良好な関係の構築を図る。
- ② サービス提供地域における医療・介護等にかかる会議等に積極的に関わっていくことで、医療機関や地域団体との良好な関係の構築を図る。
- ③ 地域包括ケアの実践に向け、他職種連携の意識を醸成し、円滑な支援のため適宜必要な連携を図る。

《取組みの結果》

多摩市及び八王子市や地域包括支援センター主催の会議等には可能な範囲で参加し、情報収集及び良好な関係が継続できるように努めた。

介護報酬改定により、当事業所が取得している特定事業所加算（Ⅲ）取得の算定要件追加項目に「地域包括支援センター等が実施する事例検討会等への参加」が追加された。平成30年度も積極的に参加していきたい。

（5）事業拡充への取り組み 【評価：B】

《取り組みの目標》

- ① 標準担当件数（介護支援専門員一人当たり35件）を年間通じて維持するよう努めるとともに、法人の新規事業への展開を具体的に進める。
- ② 特定事業所加算（Ⅲ）の算定を継続して目指す。
- ③ 特定事業所加算の要件でもある実習生の受入れに関しては、主任介護支援専門員のみならず事業所全体で協力して支援する。

《取り組みの結果》

介護支援専門員一人当たり35件が維持できるように、新規利用者を可能な限り受け入れたが、長期入院・施設入所・介護予防支援への移行・逝去等の理由で終了者も多く、結果として利用者数増加に繋げることができず、平均利用者数も一人当たり35件に届かなかった。

平成30年度も新規利用者を関係機関に紹介してもらえるように、真摯に職務に取り組んでいきたい。事業所拡大につなげるためにも、35件維持を目指していく。

VII 認知症対応型通所介護ほのぼの堀之内 事業報告書

平成30年3月1日に当法人初の多摩市外でのサービス事業所として、八王子市松木において定員12名の地域密着型認知症対応型通所介護事業所「ほのぼの堀之内」を開所した。

事業所の開設前から八王子市の包括支援センターや近隣の居宅介護支援事業所へ事業所の開設時期や事業内容について説明にまわり、平成30年2月16日、20日、24日に事業所の内覧会を実施し事業所のPRに取り組んだ。

平成30年4月に予定されていた介護報酬改定の内容を確認してから利用を開始したいという方が多く、結果的に3月の利用者数は新規契約1名であった。しかし、サービスの利用を検討するために体験で利用した方が9名いらっしゃり、その後、順次利用契約につながっている。

事業所の特徴として、近隣農園との連携で、日中の活動プログラムに畑仕事を取り入れたり、小規模事業所の特性を活かして、個別性を重視したケアの実践を目指したりなどが体験利用者には好評であった。

平成30年度も引き続き地域のなかでしっかりと情報発信に取り組み、ご利用者やご家族に適切な認知症ケアを提供していく。

VIII 多摩市多摩センター地域包括支援センター 事業報告書

当包括支援センター担当地域の高齢者人口が 8,000 人を超えたため、主任ケアマネジャーを増員し、7 名体制で業務にあたった。

認知症地域推進員が中心となって、認知症サポーター養成講座を地域のキャラバンメイトと企画し、9 回と例年より多く行うことができた。

多世代交流ができる居場所作りとして「からきだ匠カフェ」を唐木田に立ち上げ、平成 29 年 5 月から毎月開催している。「キッチン Tis」の協力のもと、大妻女子大学・あい介護老人保健施設・多摩市社会福祉協議会と共同企画で実施している。

平成 29 年度重点項目への取り組み状況について

(1) 地域社会との連携及び専門職との連携構築 【評価：A】

高齢者が介護サービスや保健医療福祉サービス、インフォーマルサービス等を一体的に利用できるよう、介護保険事業所、医療機関、民生委員、社会福祉協議会等の専門的な多職種と、地域の中のさまざまな取組みを連携させ、高齢者支援のためのネットワーク構築を行う。

〈取組みの目標〉

- ① 高齢者の集まる地域活動等へ参加し、情報収集を行う。
- ② 地域の特性に注目し、独自のネットワークを作る。

〈取組みの結果〉

地域の介護予防を目的とした活動の紹介や認知症の方の相談等、介護福祉、リハビリ専門職、民生委員や地域のキーパーソンとの連携が取れた。

平成 30 年度も継続して、自立支援の促進、地域力アップに向けた取り組みを関係機関と行っていく。

(2) 介護支援専門員に対する支援・指導 【評価：A】

高齢者が安心して生活を継続するため、介護支援専門員が包括的、継続的にケアマネジメントの実践ができるように、地域の連携・協力体制を整備し、介護保険以外の社会資源の活用ができるようにする。

《取組みの目標》

- ① ケアプラン点検を本格スタートさせる。
- ② ケアマネジャー支援のための事例検討会やスキルアップのための会を開催する。

《取組みの結果》

介護支援専門員が担当する支援困難ケースや多問題ケースについては、相談内容に応じ多職種で対応し、課題解決に向け必要な支援・指導・助言を行った。主に多摩市落合地区の複数居宅介護支援事業所ケアマネジャーで構成される「落合ケアマネ会」の運営をサポートし、地域の介護支援専門員との顔の見える関係性の強化、地域資源や行政施策等の情報提供、ケアマネジメント業務全般のスキル向上などを目的として行った。

(3) 地域ケア会議の開催 【評価：B】

個別課題の解決、ネットワークの構築、地域課題の発見の実績を積み上げ、多職種個別ケースの課題解決へ向けた支援内容を検討することで、個別ケースの検討を通じて、地域づくり、社会資源の開発、政策形成へつながるために地域ケア会議を実施する。

《取組みの目標》

- ① 平成29年度は28年度より多くの開催を求められているため、タイミングを逃さず開催を企画していく。

《取組みの結果》

市から目標値として5回開催することを提示されたが、開催にあたっては、本人の承諾が必要でもあるため、会議の対象は2件だった。平成30年度は、自治会や管理組合からの困りごと相談や、ケアマネが支援困難と感じているケースなど、タイミングを逃さず実施していく。また、「地域ケア会議」自体を紹介していく機会を作る。

IX 軽費老人ホームA型 偕楽荘 事業報告書

ご利用者の高齢化に伴い、自立の方、支援が必要な方など幅広い対応が必要となった。そのため、重点目標である、健康寿命を延ばす取り組みとして、介護予防、認知症予防、社会参加などの取り組みを積極的に実施した。また地域開放では、継続して介護予防教室「GOGO体操」や料理教室「わくわくキッチン」を実施した。利用者と地域高齢者との交流の場として機能している。また、昨年度に続き、全国老人福祉施設協議会主催の研究会議にて2年連続最優秀賞を受賞した。

平成29年度重点項目への取り組み状況について

(1) 個別支援強化への取り組み 【評価：A】

《取り組みの目標》

- ① ケアワーカーを中心に他職種と共同で毎月居室訪問及び面談を行い、個々のニーズや生活上の課題抽出を深め、自立支援に取り組む。
- ② 生活習慣病の予防や悪化防止のため、定期的にBMIの測定を行い、ケアワーカー、看護師、管理栄養士が情報を共有し連携しながら日常生活、運動、栄養管理等の支援に取り組む。
- ③ 個別支援を充実するために、ご利用者、ご家族関係者との連携を深め、迅速に個々の課題に対応するための体制を維持向上する。
- ④ 行事に対するご利用者アンケートの結果を反映しつつ、季節感や楽しみを感じられるような参加満足度の高い行事を実施する。
- ⑤ 個々の能力を生かし、主体的、自主的に取り組みを行うよう支援する。

《取り組みの結果》

ケアワーカー、看護師、栄養士が個別に面談を行ない、ニーズや課題の把握に努め、個別支援の強化に繋がった。また、行事等はアンケートを実施し次年度に繋げている。上半期、下半期共に各専門職が関りを持ち支援強化に努めた。

(2) 医療支援・看護支援強化への取り組み 【評価：A】

《取り組みの目標》

- ① かかりつけ病院、協力病院、地域の病院との連携を更に強化する。

- ② 看護師を中心に非常時、緊急時にご本人情報等を医療機関等へ迅速に提供するための関係書類を整備・管理する。
- ③ 看護師を中心に定期的に個別面談を実施。健康診断の結果や日常生活の様子等から疾病の早期発見に努める。
- ④ ご利用者、ご家族関係者を交えて高齢者医療・疾病についての理解を深める。

《取組みの結果》

緊急時の対応に関しては、病院との連携や緊急時の書類の作成などはマニュアル化しており、対応が可能である。また病状の変化についても面談を行うことで常に新たな情報を更新している。病状の変化や進行によっては保証人の協力も必要なため、ご本人、保証人含めた病気への理解を今後は深めていく。

(3) 施設での食生活充実への取り組み 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① ご利用者の食数、嗜好を考慮し、適正栄養量が満たされ、かつ、喜ばれる食事の提供に努める。
- ② 食事の楽しさと健康的な食事の充実をはかるため、厨房委託業者と連携を図り、食事会議の充実に取り組む。
- ③ ご利用者の栄養状態の把握や改善のため、定期的に管理栄養士が個別面談を実施し栄養相談に応じる。

《取組みの結果》

平成29年度から委託業者を変更した。献立については施設の献立を参考に作成したことによって安定した。味付けや、食事提供などは継続して指導を続けている。今後も食事の楽しさと健康的な食事の提供を行うため、施設栄養士が中心となり委託業者と調整を行う。

(4) 介護予防への取り組み 【評価：B】

《取組みの目標》

- ① 介護予防教室を実施し、基礎体力の維持・向上をする。介護予防教室の利用者参加率85%を維持する。
- ② 各種クラブ活動を実施し、介護予防と生きがいつくりの充実を図る。

- ③ 認知症予防への取り組みを行う。また認知症の早期発見に努める。
- ④ 口腔ケアに取り組み、各ご利用者の状態の把握を行い、必要に応じて歯科医への受診勧奨等で咀嚼嚥下機能の維持向上に取り組む。
- ⑤ 健康・介護予防のための講座を年6回実施し、介護予防への啓発を行う。

《取り組みの結果》

GOGO 体操（偕楽荘介護予防教室）、偕楽荘クラブ活動などの介護予防活動は充実している。しかし、参加者が固定化してきているため、今後も参加率向上に取り組む。介護予防教室へのご利用者の参加率は60%であった。また、口腔ケアについては、講習会等で必要性を認識していただき、歯科受診等に繋げていく。

(5) リスクマネジメントへの取り組み 【評価：B】

《取り組みの目標》

- ① 防災訓練を毎月実施する。防犯訓練・交通ルールの確認・講習を年1回実施する。
- ② 感染症の発生を未然に防ぐための対策を強化する。また発生した場合の対応方法について把握し実施する。
- ③ 施設内での事故発生時対応について、マニュアルを継続して点検し、予防に努める。

《取り組みの結果》

毎月1回防災訓練を実施。その他に防犯訓練（警察官による講話）を実施した。また、交通訓練を実施予定としていたが、日程調整の関係で実施する事が出来なかった。

感染症については施設内で研修等を行ない、利用者の状況に応じた対応方法を中心に検討。また、事故などは検討委員会で検討を行なっているが、居室内等の転倒が多い為、検討方法などの見直しを行ない、より迅速な対応ができるような体制を作っていく。

(6) 広報活動への取り組み 【評価：A】

《取り組みの目標》

- ① 偕楽荘広報紙『偕楽荘からのお知らせ』を年4回発行する。
- ② 施設紹介等のパンフレットを見直し、内容の充実を図る。

- ③ ホームページの内容を充実させ、更新を適時行う。
- ④ 施設での取り組みや研究内容を他施設や学生、地域等に伝える場を設ける。

《取り組みの結果》

施設を紹介するパンフレットを新たに作成した。また施設の行事などを中心にお知らせしている広報誌『偕楽版』を年4回発行した。

施設での先駆的な取り組みを発表するため、東京都高齢者福祉施設協議会主催のアクティブ福祉 in 東京及び全国老人福祉協議会主催の全国高齢者福祉施設研究会議（高知会議）に職員を派遣。高知会議では2年連続で最優秀賞を受賞した。継続して生活の質の向上を目的とした研究を行ない、発表をしていく。

(7) 地域活動への取り組み 【評価：A】

《取り組みの目標》

- ① 施設ご利用者を対象に行っている介護予防活動や生きがづくり活動を地域の方向けに積極的に開放し、地域全体の活性化に繋げる。
- ② 地域の方のニーズを把握し、施設機能を提供する。

《取り組み結果》

介護予防教室『GOGO 体操』、介護予防につながる料理教室『わくわくキッチン』、テーマ毎に行なった講習会など実施。施設と地域とのつながりを深める取り組みを行った。今後も軽費老人ホームが長年培った自立支援を地域に還元し、偕楽荘を拠点として、地域全体の健康寿命の向上に取り組んでいく。